

## 生命環境特別演習

2単位 4年(前期, 後期)

小山保夫・教授/社会創生学科

**【授業目的】** 一般的には研究は論文として発表した場合にのみ評価される。しかし、自然科学系では学会発表やピアレビューを受けていない(審査制度のない)論文は評価されない。よって、得られた実験結果から「研究論文」を纏め、それを審査制度のある学術誌(国外, 英文)に投稿してみよう。

**【授業概要】** 生命科学系学術誌に研究論文を投稿する(可能ならば, 受理されるまで)。

**【履修上の注意】** 健康であること。とにかく, 論文が受理されるまでは学生自身も教員もそれなりに大変です。

**【到達目標】** 卒業までに卒業研究が論文として受理されること。

### 【授業計画】

1. 研究論文を纏めて, それを学術誌に投稿し, レフリー(査読者)のコメントに答えて論文が受理され, 学術誌に論文が掲載されるまで, そのプロセスで必要な実務を体験させます。
2. (前期)1-, 2-および3-実験結果の精査および不足分の確定と追加(実験は3年次に行った分)
3. (前期)4-, 5-および6-投稿先の決定, 論文フォーマットの確認および論文構成の確認
4. (前期)7-論文書き。まずは簡単な「方法」から。
5. (前期)8-, 9-および10-論文書き。次に簡単な「結果」を。
6. (前期)11-, 12-および13-論文書き。「考察」を。引用文献を読みながら, これは苦しい。
7. (前期)14-, 15-, 16-論文書き。「緒言」を。「緒言」は, なぜ, 実験をしたのか, その意義付けである。普通は最初を書くが, ここでは最後を書く。その理由を解説しながら, 論文指導を行う。仕上げ, 夏休み前に投稿。
8. (後期)1-, 2-および3-投稿した論文をどうするか。前期に投稿した論文は2か月以内に審査は終わり, 戻ってくる。その審査結果により, ここからの講義内容は変わる。最も多いケースを想定して, 以下の予定で講義を進める。
9. (後期)4-および5-投稿した論文をどうするか。改訂を求められた場合はそれに従い, 追加実験および論文内容の改訂を検討する。
10. (後期)6-, 7-および8-追加実験を行う。
11. (後期)9-, 10-および11-査読者のコメントに対する回答(論文の改訂も含む)を書く。
12. (後期)12-冬休み前に再投稿を行う。

13. (後期)13-再投稿した論文の審査は早いので, 2週間程度で戻ってくる。その審査結果により, ここからの講義内容は変わる。最も多いケースを想定して, 以下の予定で講義を進める。

14. (後期)14-査読者のコメントの精査を行う。

15. (後期)15-コメントに沿って論文改訂を行う。

16. (後期)16-論文の最終稿を再々投稿し, 審査結果を待つ。

**【成績評価】** 論文が受理されたら, 満点。論文の受理が時間的に間に合わない場合は, そこまでのプロセスで評価します。

**【再試験】** 講義の内容上, 再試は行えません。

**【教科書】** 研究室の先輩たちが残した論文(過去二年分)を参考にします。それらは <http://pub2.ait230.tokushima-u.ac.jp/survey/person/60453/>を見て, 電子ジャーナルでダウンロードして下さい。

**【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219378>

### 【連絡先】

⇒ 小山(総合科学部3号館3N06, [oyama@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:oyama@ias.tokushima-u.ac.jp)) MAIL(オフィスアワー: いつでも可。研究室にいない時はメールしなさい。)